

立教大学学術推進特別重点資金 (立教 S F R)
在外研究
2012年度研究成果報告書

研究代表者	所属・職名		氏名	
	異文化コミュニケーション学部		マーク・カプリオ 印	
研究課題	日本と南朝鮮における植民地残滓・占領、帰還と分断			
研修期間	2012年9月10日 ~ 2013年3月31日 (203日間)			
経費	年度経費	SFR助成額	所属学部からの補助額	合計
	2011年度	円	円	円
	2012年度	円	1,000,000円	円
主な滞在国及び研究機関名	国名	研究機関名		
	米国	UCLA Center for Korean Studies		
研究成果の概要 (図・グラフは使用しないこと)				
<p>この研究は戦後(日本の場合)・解放後(朝鮮の場合)の占領時代の歴史、特に朝鮮半島で日本の植民地残滓とこの影響を検査している。今年度、この研究の成果は3点の進歩を実現した。1点目は史料収集。2点目はこの史料を形に纏めて大学の朝鮮や日本研究所で発表すること。そして、3点目は発表の口論の時間で得たコメント等をもとにして著作のチャプターの形に再考すること。まず一点目の段階で下記の図書館や史料室で検査した。</p> <p>ロス安下レス: UCLA大学の図書館、南カリフォルニア大学図書館 シカゴ市: Bruce Cumings 教授との相談 バーモント州: Mark Lincicome 教授との相談 バージニア州ノーフォーク市: Douglas MacArthur Centerの資料室 ワシントンD.C.: アメリカ国会図書館 サンホセ市, California州: スタンフォード大学: Hoover Institute 資料室、大学の朝鮮学や日本学の教授との相談 New Haven市 Connecticut州: イェール大学図書館 ケムブリッジ市, MA: ハーバード大学のイェンチング図書館、Carter Eckert 教授、Sun Joo Kim 教授との相談 シカゴ市: Bruce Cumings 教授、Kyeong-Hee Choi 教授、Susan Burns 教授との相談 ホノルル市ハワイ大学の朝鮮学図書室 バルチモール市メリランド州: アメリカ国立資料館、アメリカ海軍大学図書館</p> <p>二点目の段階は史料に関する研究発表。下記に一覧にあるように大学アジアや朝鮮研究所はイェール大学とシカゴ大学で私の研究に関するシンポジウムを開いてくれて、そしてこれからUCLA(4月)とスタンフォード大学(5月)で同じような機会は予定されている。学会では3月末にはアメリカアジア学会(今年サンディエゴ市)で発表して、今度の6月にASPAC(アメリカの太平洋海岸アジア学会)でも発表する予定はある。それぞれの機会では大学の教授は勿論、大学院生からのコメント、質問、とディスカッションは私の研究の進歩のためにとっても役にたった。</p>				

研究成果の概要 (つづき)

三点目は 1・2 点目の段階の結果を纏めて著作のためのチャプターを作成すること。現代のところ下記の四チャプターを一応終了した。

- ① 戦後占領のための米国の戦時中準備
- ② 在米朝鮮人の組織と米国の反応
- ③ 戦後直後の米国の日本・朝鮮に関しての態度変更
- ④ 朝鮮人中の植民時代の協力者と米国占領時期にこの問題の解決の失敗

これから作成する予定チャプターは

- ① 在朝日本人の引き上げと在日朝鮮帰還の問題
- ② 日本海・東海の危険性

それぞれのチャプターを日本へ帰国してから書きなおしてアメリカの出版社 (今はハーバード大学出版を考慮している) に提出する。

キーワード (研究内容を適確に表しているものを 5 項目で記入)

[日本] [朝鮮] [米軍占領統治] [ポスト・コロニアル] [歴史的記憶]

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ① 雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ② 図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③ シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④ その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

③
 “A Question of Treason: Assessing Korean Collaboration Under Japanese Rule” Yale University, New Haven, CT, USA (November 2012).

“Wartime Preparations for East Asian Occupations: Laying the Foundations for Postwar Alliances,” University of Chicago, Chicago, IL, USA (January 2013).

予 定

“The Great Reversal: Defeated Japan as Ally and Liberated Korea as Enemy,” Center for Korean Studies, UCLA, Los Angeles, CA, USA (April, 2013).

“Peaceful Archipelago and Violent Peninsula: A Tale of Two Occupations,” Stanford University, Stanford, CA, USA (May 2013).

④
 “Interpreting Disaster: The Ukishimamaru Incident in North and South Korean Memory,” Association for Asian Studies, San Diego, CA, USA (March 2013).

“The Eagle has Landed: OSS Training of Koreans in China,” ASPAC Conference, Monterey, CA (June 2013).

※この (様式 2) に記入の、成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書 (A 4 縦型横書き 1 枚・自由様式) を添付すること。